

2024 年 11 月 15 日 3 歳児・4 歳児公開保育研修会 ～保育をみよう 語り合おう～

子どももわたしたちも主体感をもち、互いに学び合う。
実践の場に身を置き、それぞれが感じ、考えたことを
書き、対話することによって、
わたしたち実践者の学びを創っていきたい。
多種多様な背景をもつ人々と
互いに語り聴き合うことによって、
自らの実践のあり方について
協働して探究していくことに挑戦しました。

保育を参観する前に、この研修における前提を参加者のみなさんと共有しました。その後、3 歳児・4 歳児の保育実践を他学年や他園、本園の実践者が参観をしました。

当日の保育の実践者による D.D.を参加者のみなさんに参観していただき、その後当日の保育を通した語り合いを実施しました。

また、本日の保育で印象に残った場面と、そこから想起された自身の実践について書くとともに、それらを糸口としながら小グループでの語り合いを実施しました。それぞれの捉えたこと、想起したことなどを出し合いながら「なぜそう感じるか」を互いに問い合い、自らの保育観や信念など自身の実践論理を再構築することを目指しました。

また本研修による営みの意味を東京大学大学院教育学研究科教授 浅井幸子先生よりお話いただきました。

研修終了後には、担任を囲み改めてその日の保育実践を振り返る時間を持ちました。

みなさんご参加ありがとうございました。

(参加者：53 名)

11月15日（金） 日程

- 9:00～9:15 本園の研修のありかたについて
- 9:15～11:30 「保育をみよう」
- 11:45～12:00 「実践者の語り合い(D.D.)を見て聴こう」
- 12:15～12:30 「保育を書こう」
：印象に残った場面/想起された自らの実践
を付箋に記入し台紙にはっていく
- 13:15～15:50 「保育を語り合おう」
 - ・全体での語り合い
 - ・本日の保育を通した語り合い（グループでの対話）
 - ・浅井先生より（40分）
- 16:00 参加者アンケート記入

ともに生きていること ともに学び合うこと

・ともに学びをつくる公開保育研修会であるために



関係性によって見える意味が異なることを感じながら
言葉を重ね、学びを創っていきましょう。

本日の保育を通した語り合い
どうして面白いと感じたのか
どうして気になったのか

一他者と言葉を交えることで
自らの教育観、価値観、
認識の固定化、自身の学びを捉える

印象に残った場面

想起された自らの実践



参加いただいた方のふりかえり（抜粋）

1人1人ちがうという当たり前でも忘れてしまいがちなことをあらためて振り返る機会となりました。
「聞くこと」の大切さを子どもたちに伝えられるよう、もう一度私自身が実践していきたいと思います。

子どもも自分の人生を生きる主体だ、
ということを実感しました。

いろんな方の考え方、
価値観を知ることができ、
自分の考え方や、
自分がどのような捉え方を
しているかという、
自分自身の保育観にも
ふれる機会となった。

「将来のために」だけでなく、
「今、この目の前の子どものために」
どのように援助するかを
今一度よく考えたいと思います。

まず最初のお話で、「よりよく」を目指すことだけでなく、多様な価値を今ここで創り出していく実践へ、とあった。
未来に向かわないと、何かを目指さないと、と変に気負っていたが、今の実践の意味、子どもが考えている価値を皆さんと一緒に考えることができた。